

2026年度 法学部国際政治学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（法学）」を授与する。

〔国際政治学科〕

1. グローバル時代に活躍するのに必要な国際政治学の領域を超えた幅広い教養と学識を獲得している。
2. 専門科目を履修することにより、地球規模問題群やアジア地域の諸問題に対する観察力と分析力、さらには積極的に行動する地球市民意識を有している。
3. 専門科目の中の実践講座科目等を履修することにより、実践的な英語力を含む語学力と異文化理解力を習得している。
4. 演習や選択科目である卒業論文、リサーチペーパー等によって、構想力・独創性・主体性・コミュニケーション能力を備えている。

〔凡例〕

◎＝当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを特に強く推奨する科目。

○＝当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを強く推奨する科目。

△＝当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することが望ましい科目。

無＝当該DPの示す学習成果を達成するために、余裕があれば履修することが望ましい科目。

※分類：必→必修科目 共→コース共通科目 実→実践講座科目 総→総合科目 A→アジア国際政治コース G→グローバル・ガバナンスコース

分類※	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
必	国際政治への案内	BSP100AD	1～4	国際政治学科の新入生を対象とする必修科目。国際政治に関する科目を担当する教員が一人一回ずつ講義を行う。受講生が、国際政治のさまざまな面についての基礎的知識や見方を身につけることがこの授業の目的。2年次に所属するゼミを選択する際の判断材料を提供することも目的としている。	・国際政治についての幅広い知識を身につける。 ・国際政治についての授業を担当する教員の研究テーマを理解する。 ・大学生活を通じて自分が深く掘り下げたいと思う学習分野や研究テーマを見つける。	◎	◎	◎	◎
必	Intensive English	BSP100AD	1～4	This is an upper-level Intensive English course.	This course aims to help students take their English skills to a higher level by focusing on a range of topical global political issues. In the early stages of the course, students will analyse a specific topic under close supervision. As the course proceeds, depth and breadth of study will be expanded so as to require students to carry out individualized assignments, which will further refine their organizational, analytical and communication skills.	◎	◎	◎	◎
共	戦後国際関係史	POL100AD	1～4	本科目は、第二次世界大戦後から現在に至るまでの国際関係史を学ぶ授業です。冷戦前半（冷戦の勃発から激化）、冷戦後半（緊張緩和から「新冷戦」へ）、冷戦終結後という3つの時期について、異なる地域を専門とする4人の教員が順番に講義を行い、国際関係の歴史を多面的に説明します。この授業を通じて、受講生は、国際問題を様々な角度から理解する力を身につけることを目指します。	(1) 現代の国際問題の起源にどのような歴史的背景があるのかを説明できる (2) 国際関係の重要な事件について、異なる立場から多角的に論じることができる	○	◎	○	○
共	国際政治学特講Ⅰ	POL100AD	1～4	経済開発や社会開発と政治体制との関係についてのさまざまな学説を紹介することによって、開発と援助の問題に関する理解を深めることを目的とします。この授業では、個別の国の実態よりも、理論的な考察に重点を置きます。	経済発展における非市場メカニズムの重要性についての理解を深め、経済開発や社会開発と政治的変化の関係についての理解を深めることを目指します。それによって、開発や援助について自分なりの考えを持つことができるようになることを目指します。	○	◎	○	○
共	国際政治学特講Ⅱ	POL100AD	1～4	世界各地のポピュリズムを比較して考察します。ポピュリズムとは何か、ポピュリズムにはどのような問題点があるのか、先進国と中進国のポピュリズムにはどのような違いがあるのか、ポピュリズムはどのような条件下で強まり、どのような条件下で弱まるのかについて、受講生が理解を深めることを目的とします。	(1) 世界各地のポピュリズムの多様なあり方についての基礎知識を獲得する。(2) ポピュリズムに対する多様な見方を知り、ポピュリズムの何が問題で、何が問題でないのか、反ポピュリズムの言説にはどのようなものがあり、反ポピュリズムの側にはどのような問題があるのかについての理解を深める。(3) ポピュリズムについての政治学的な分析に触れることによって、社会科学的方法の利点と限界についての理解も深める。	○	◎	○	○
共	国際政治学入門	POL100AD	1～4	国際政治学とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵襲や中国の台頭などによって第二次世界大戦後の国際秩序が大きく動揺していると言われます。今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。	本講義では、以下を到達目標とします。 1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。 2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。 3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。	○	◎	○	○
共	国際政治の理論と現実	POL100AD	1～4	本講義では、国際政治を捉える基本的な理論枠組であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムについて考察していく。そしてそれらを第二次世界大戦後の具体的な事象の説明に適用し、理論の射程と限界を明らかにすることで、国際政治の構造と多面性を炙り出そうとする。そのねらいは、第一に、複雑な国際政治を理解するための相対的な視点を養うことにあり、第二に、理論と実際の反復作業をつうじて、応用範囲の広い問題解決型の思考を形成することにある。	本講義を履修することで次の能力を修得する。1) 個別の国際政治現象を、一般的な国際関係理論の枠組みを用いて理解できるようにする。2) 理論と実際の相互作用を意識することで、国際関係に対するバランス感覚を養うとともに、個別の問題解決のための手立てを得ることができる。	○	◎	○	○
共	ヨーロッパ統合史	POL100AD	1～4	本講義は、ヨーロッパ統合の動きを国際関係史の視点で論じたいうえで、現状分析を行う。目的は、まずヨーロッパ統合の史的展開を把握し、主権国家を中心とした世界のなかでのその異質性に関する理解を深めることである。	本講義の到達目標は、なぜ近代主権国家の概念が生じたヨーロッパで今度はそれを超克しようとする運動が生じたのかを理解することである。そして、地域統合の中身が多様であり、現実と理想との相克とのなかでの史的展開が行われたことを理解することである。 なお、今年度は「ヨーロッパ統合論」が開講されないことから、ヨーロッパの現状分析についても講義のなかに組み入れ、歴史と現在の動きの双方を理解できるよう工夫したい。	○	◎	○	○
共	ヨーロッパ統合論	POL100AD	1～4	本授業では、ヨーロッパ統合を体現している欧州連合（European Union、EU）を理解するとともに、現代ヨーロッパが抱えている問題をテーマとして扱う。現代ヨーロッパをとおして国際政治上の多くの問題への理解を深めることが目的である。	本授業の到達目標は、EUの機構、そしてその役割を理解し、地域統合の特徴に関する知見を深めることである。	○	◎	○	○

分類※	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
共	EUの政治と社会 I	POL100AD	1～4	本講義では、現代ヨーロッパを理解するため、EU（欧州連合）を取り上げる。特に、冷戦終結までの発展の歴史を考察し、ヨーロッパ統合がなぜ始まり、いかに発展してきたのか、また加盟国はそれぞれ異なる対応に迫られてきたのかを詳しく検討する。 現代世界は相互依存関係が進み、一国が全く独立した形で政策を実施することが困難になりつつある。国内の政策も国際的な影響を受けるため、世界全体の大きな枠組みの中で考えざるを得ない。そうした現状の典型的な事例は、第二次世界大戦後のヨーロッパである。EUに見られるように、ヨーロッパ統合の動きが進展し、様々な共通政策が行われ、従来の国際政治を大きく変えつつある。このヨーロッパの事例を学ぶことで、今後の世界を考える上で極めて貴重な視点が得られるであろう。	講義の到達目標としては、現代ヨーロッパに関して以下の2点をめざす。 (1) 分析、評価するための手法（特に、歴史的分析、分析レベル）を学び、それに基づいてEUの歴史と現状を理解し、分析できること。 (2) 自分自身の意見を具体的根拠に基づいて論理的に展開できるようにすること。	○	◎	○	○
共	EUの政治と社会 II	POL100AD	1～4	本講義では、現代ヨーロッパを理解するため、EU（欧州連合）を取り上げる。特に、冷戦終結後のヨーロッパ統合の歴史を考察した後、EUの政策決定過程、EU内の政治力学などを詳しく検討する。それにより現代国際政治の中のヨーロッパについて現状を把握し、将来を展望したい。 現代世界は相互依存関係が進み、一国が全く独立した形で政策を実施することが困難になりつつある。国内の政策も国際的な影響を受けるため、世界全体の大きな枠組みの中で考えざるを得ない。そうした現状の典型的な事例は、第二次世界大戦後のヨーロッパである。EUに見られるように、ヨーロッパ統合の動きが進展し、様々な共通政策が行われ、従来の国際政治を大きく変えつつある。このヨーロッパの事例を学ぶことで、今後の世界を考える上で極めて貴重な視点が得られるであろう。	講義の到達目標としては、現代ヨーロッパに関して以下の2点をめざす。 (1) 分析、評価するための手法（特に、歴史的分析、分析レベル）を学び、それに基づいてEUの歴史と現状を理解し、分析できること。 (2) 自分自身の意見を具体的根拠に基づいて論理的に展開できるようにすること。	○	◎	○	○
共	東欧の政治と社会 I	POL100AD	1～4	東欧地域の最新情勢を織り交ぜながら、歴史的背景を探り、現状把握に努める。本学は主として旧ユーゴスラビア内戦後の平和構築、および欧州統合を支える平和の理念や和解の精神を通して、東欧地域の課題を概観する。	「もう一つの欧州」といわれる東欧の放つメッセージに耳を傾け、単なる知識にとどまらず、年代に刻まれた歴史事情への理解を目指す。	○	◎	○	○
共	東欧の政治と社会 II	POL100AD	1～4	東欧地域の最新情勢を織り交ぜながら、歴史的背景を探り、現状把握に努める。本学は主として旧ユーゴスラビア内戦後の平和構築、および欧州統合を支える平和の理念や和解の精神を通して、東欧地域の課題を概観する。	欧州の一角にあるバルカン地域を含めた東欧の現状に目を向け、欧州の平和と安全にとっての意味合いについて理解することを目指す。	○	◎	○	○
共	中東の政治と社会 I	POL100AD	1～4	中東イスラーム世界の宗教と国家の歴史的展開に関する基本的知識を身につけることを目的とする。同時に、第一次大戦後の中東世界の政治を考えることに必要な知識を得ることを目指す。	学生は以下のことが可能になります。 中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。 中東地域と他の地域（特にヨーロッパ）との関係についての理解。 国際政治学や比較政治に関する基本的な知識の習得。 By the end of the course, students should be able to do the followings: To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East To understand the relationship between the Middle East and other regions (especially Europe) To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics	○	◎	○	○
共	中東の政治と社会 II	POL100AD	1～4	第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の基本的知識を習得することを目標とする。	学生は以下のことが可能になります。 中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。 中東地域と他の地域の関係についての理解。 国際政治学や比較政治に関する知識の習得。 By the end of the course, students should be able to do the followings: To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics	○	◎	○	○
共	旧ソ連諸国の政治と社会 I	POL100AD	1～4	20世紀末にソ連が崩壊したことによって、15の独立国家が誕生した。これらの国々は、かつて同一国家であったという歴史を共有しているが、現在の政治のあり方は様々である。そこで、本講義では、比較政治学の理論的観点から旧ソ連諸国の政治を比較検討する。講義ではまず比較政治学の理論的研究を紹介し、その理論で旧ソ連諸国の政治がどう捉えられることができるのか（できないのか）を考える。	1. 比較政治学の理論的研究の基礎を理解できる。 2. 理論的研究に基づいて、旧ソ連諸国の政治を理解できる。 3. 理論的見地から、旧ソ連諸国の特殊性と他地域との共通点を説明できる。	○	◎	○	○
共	旧ソ連諸国の政治と社会 II	POL100AD	1～4	20世紀末にソ連が崩壊したことによって、15の独立国家が誕生した。これらの国々は、かつて同一国家であったという歴史を共有しているが、現在の政治のあり方は様々である。本講義では、ソ連崩壊後のロシア政治を中心に扱う。前期と同様に、比較政治学の理論的見地から検討することで、ロシアはどのような特殊性を持つのか、日本や他の地域の国々との共通点はないのかを考える。	1. 比較政治学の理論的研究の基礎を理解できる。 2. 理論的研究に基づいて、ロシア政治を理解できる。 3. 理論的見地から、ロシアの特殊性と他地域との共通点を説明できる。	○	◎	○	○
共	ユーラシアの民族と政治 I	POL100AD	1～4	この授業では、旧ソ連から中国を含むユーラシア地域の民族問題について学ぶ。本学は、旧ソ連地域に焦点をあてる。授業を通じて、当該地域の民族問題についての基礎的な理解を養うことを目的とする。	この授業を通じて、旧ソ連地域の民族問題についての基礎的な理解を養い、今後同地域に関するニュースに接した時に自己の見解を持てるようにすること、また将来現地への赴任など現地と関わる機会を想定し、地域の概要を説明できるようにすることを目標とする。	○	◎	○	○
共	ユーラシアの民族と政治 II	POL100AD	1～4	この授業では、旧ソ連から中国を含むユーラシア地域の民族問題について学ぶ。本学は、中国に焦点をあてる。授業を通じて、当該地域の民族問題についての基礎的な理解を養うことを目的とする。	この授業を通じて、中国の民族問題についての基礎的な理解を養い、今後同地域に関するニュースに接した時に自己の見解を持てるようにすること、また将来現地への赴任など現地と関わる機会を想定し、地域の概要を説明できるようにすることを目標とする。	○	◎	○	○
共	ラテンアメリカの政治と社会 I	POL100AD	1～4	本講義は、ラテンアメリカ地域の政治と社会における多様性を学ぶ。いわばラテンアメリカ研究入門である。講義ではまず、現在のラテンアメリカを形づくっている人種・民族、文化、歴史、地理的特徴を理解する。そのうえで先住民（1492年以前）から20世紀後半の軍事政権までの政治史を学ぶ。	1. ラテンアメリカ地域の政治と社会の多様性ならびに地域的特徴について説明できる。 2. 先住民時代から1980年代までのそれぞれの時代におけるラテンアメリカ政治の特徴を理解し説明できる。	○	◎	○	○
共	ラテンアメリカの政治と社会 II	POL100AD	1～4	本講義は、ラテンアメリカ地域の政治と社会における多様性を学ぶ。いわばラテンアメリカ研究入門である。講義ではまず、現代ラテンアメリカが抱える社会問題（貧困、先住民、麻薬、ジェンダー、LGBTQ+等）に焦点を当てて、ラテンアメリカを多角的に理解することを目的とする。	1. 民政移管から現代までのラテンアメリカ政治の特徴を理解し説明できる。 2. 現代ラテンアメリカ社会が抱える問題について考察し、自分の意見を述べることができる。	○	◎	○	○

分類※	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
共	アフリカの政治と社会 I	POL100AD	1～4	This course is a general introduction for students who wish to expand their comprehension of global issues with reference to Africa as informed participants. It is also for students who are interested in studying Africa's society, culture, and politics. Students will learn to identify, analyze, interpret, and evaluate African issues and relate them to global issues.	This course aims to expose students to how Africa has been subjected to profound stereotypes and misconceptions that have largely informed the continent's global perspectives. The course will seek to humanise our understanding of Africa by emphasising forms and means of daily life experiences and understandings such as family life, love and joy, the life cycle, faith and belief, livelihoods, aspirations, hopes for the future, development aims and achievements, and a sense of global belonging. The overall goal is that students will gain experience researching, discussing, and presenting Africa in the discussion of global issues using a good command of the English language with both clarity and confidence.	○	◎	○	○
共	アフリカの政治と社会 II	POL100AD	1～4	This course is a general introduction for students who are interested in the study of Africa's society, culture, and politics. The course will provide an overview of Africa's historical, political, cultural, and societal development. The main themes to be explored in this course will include Africa's pre-colonial livelihoods, colonialism and imperialism, the post-colonial transformations, and Africa in the age of globalisation.	This course aims at exposing the students to how Africa has been subjected to stereotypes and misconceptions that largely inform the global perspectives of the continent. The course will seek to humanise our understanding of Africa by emphasising forms and means of daily life experiences and understandings such as family life, love and joy, the life cycle, faith and belief, livelihood aspirations, hopes for the future, development aims and achievements, and a sense of global belonging. The overall aim is that students will gain experience researching, discussing, and presenting global issues using a good command of the English language with both clarity and confidence.	○	◎	○	○
共	グローバル・ガバナンス	POL100AD	1～4	グローバル・ガバナンスの概念は比較的新しく、その概念をめぐる議論が続いている。しかし、実際の国際社会では、開発援助の分野においてだけでなく、さまざまな地球規模の問題領域に適用されている概念である。この講義の目的は、グローバル・ガバナンスの基本的な知識を理論と実践の両方において身に付けることにある。まず、グローバル・ガバナンスの概念の登場と発展について整理したのち、グローバル・ガバナンスのおもな担い手である国連による実践例として、人権ガバナンス、地球環境ガバナンス、安全保障におけるガバナンス、ガバナンスを支える規範や価値、視座などを取り上げる。その際、ガバナンスが形成されてきた分野、ガバナンスに参加する行為主体（アクター）、ガバナンスのしくみと実践の手段に注目する。そして、グローバル・ガバナンスの有効性と限界、課題について考える。	・理論と実践の両方において、「グローバル・ガバナンス」に関する基本的な知識を身に付ける。 ・「グローバル・ガバナンス」の有効性、限界、課題について自分なりの考えをもつ。	○	◎	○	○
共	国際協力論 I	POL100AD	1～4	ウクライナ戦争は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確実となっている。 こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。 本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを旨とする。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを旨とする。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。	まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを旨とする。途上国問題を理解するには、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するには、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機をもとにして、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。 次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようにすることを旨とする。	○	◎	○	○
共	国際協力論 II	POL100AD	1～4	世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。 本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通して、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを旨とする。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。	本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論 I」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。 なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。	○	◎	○	○
共	国際公共政策 I	POL100AD	1～4	本授業では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策」をテーマに、国際公共政策について以下の諸項目で記載した要領で学習を進めていく。それにより、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考を行うことができる能力の養成を図ることを目的とする。	国際公共政策について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について考察し、その結果をレポートにまとめることができる。	○	◎	○	○
共	国際公共政策 II	POL100AD	1～4	本授業では、「国際公共政策と日本」をテーマに（また国際行政論 II では「国際行政と日本」をテーマに）、日本の視点から国際公共政策（また国際行政論 II では国際行政）について以下の諸項目で記載した要領で学習を進めていく。それにより、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考を行うことができる能力の養成を図ることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。	国際公共政策（以下の国際公共政策の記載は国際行政論 II では国際行政に読み替えて頂きたい）について、日本の視点から学んだ上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について考察し、その考察と結果をまとめ発表することができる。	○	◎	○	○
共	国際社会の法 I	POL100AD	1～4	国際社会における法の役割について学びます。具体的には、毎回取り上げる様々なトピックを通じ、国際法や国内法が果たす機能について理解を深めます。	1 国際社会における国際法や国内法の意味について理解します。 2 メディアで取り上げられる国際時事問題を法的視点から捉え、これについて議論できるようにします。	○	◎	○	○
共	国際社会の法 II	POL100AD	1～4	国際人権法に関する基本的な概念や枠組み、思想を学びます。さらに、国際社会における国際人権法の機能について理解を深めます。	1 国際人権法の基本的概念を理解します。 2 国際社会における人権の価値や意義について考えます。	○	◎	○	○
共	市民社会の法 I	POL100AD	1～4	民法のうち、契約の成立、有効要件、および、契約の主体に関する法的問題を扱う。「裁判と法コース」など全コースに属している。民法には家族、契約、物の所有といった、私達にとって身近な事柄に関する規定が設けられているが、このうち、この授業では私達が日々行っている契約に関する基本ルールを学ぶ。 大学に入学して初めて民法を学ぶ機会でもあることから、民法とは何か、契約とは何かといった民法の基本的な考え方はもちろん、判例の調べ方、文献の調べ方といった民法の学習方法も身につける。	契約の成立、有効要件、および契約の主体にかかわる民法総則、契約総論部分の知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。 また、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。	○	◎	○	○

分類※	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
共	市民社会の法Ⅱ	POL100AD	1～4	主として民法総則を中心に扱い、民法の基本制度、基本原則、さらには消費者問題、高齢者問題といった現代社会特有の問題に対処する上で民法が果たす役割について学ぶ。「裁判と法コース」など全コースに属している。	民法総則のうち、特に信義則・権利濫用、権利外観法理、法人、時効の基本的知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。 また、消費者問題、高齢者問題など現代社会特有の問題に民法が果たす役割について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につけることができる。 以上の学習にあたり、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。	○	◎	○	○
実	国際政治ワークショップ	BSP100AD	1	本科目は、サマーセッション期間に短期集中で行われる入門レベルの基礎科目で、国際政治学科1年生による履修を強く推奨します。現代の国際政治上の問題をテーマとして、講義とグループワークを組み合わせた授業を行い、最終日に各グループによるプレゼンテーションを実施します。今日の国際政治についての基本的な知識を身に付けるとともに、国際政治学科の1年生同士が学業を通じたつながりを作り上げることが本科目の目的です。	この授業を通じて受講生は、国際社会が抱える問題について調べ、その解決策を探る能力を身につけます。また、他の受講生とコミュニケーションをとり、聞き手を意識しながら、自分の考えをわかりやすく他者に伝える能力を身につけることを目指します。	◎	◎	○	◎
実	Overseas Study Program	BSP100AD	1～4	春学期に行う事前研修と夏休み期間中に海外の大学や研究機関で集中的に行う外国語学習と、現地の政治・社会・文化などに関する現地研修を組み合わせた授業である。受講生が現地の政治・社会・文化に対する理解を深め、外国語でのコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。また、渡航準備から研修へ至るプロセスを通じて、国際的な感覚を育ててもらいたいことも目指す。	この授業を履修することによって、受講生が、海外での外国語によるコミュニケーションに慣れることが第1の目標である。この授業では、日本語を解さない人と外国語でコミュニケーションせざるを得ない環境に受講生を置くことによって、外国語を入前て話すことに対する抵抗感を低減させることをまず目指す。そして、ただ単にあたりさわりのない挨拶程度の会話をするだけでなく、各国の文化や国際政治に関する自分の考えも話せるようになることが第2の目標とする。	◎	◎	◎	◎
実	International Politics	POL200AD	2～4	In our era of globalization, what happens on the other side of the world affects our lives. The COVID-19 outbreak in a Chinese city in 2019 evolved into a worldwide pandemic. Russia's months-long war in Ukraine has accelerated a global energy and cost-of-living crisis and caused an economic slowdown in many countries. Understanding the problems that seem far away from home has become ever more important in this global era as we cannot afford to ignore them. But how can we interpret and tackle the key issues and challenges facing our world today? This introductory course in international politics and global affairs is designed to provide students with the analytical skills to explore and explain solutions to real-world issues. The course consists of three segments. To start, we will look at the historical background of today's international system, focusing on the evolution from the end of the bipolarity of the Cold War to the emerging global order increasingly led by rising powers. The second segment will cover the main concepts and major strands of theory in the discipline of international relations (IR). These conceptual tools help us analyze global problems and are necessary knowledge for students who wish to continue their studies of international politics after the conclusion of this course. In the final segment, we will investigate contemporary issues that are likely to affect our world for years to come. Students of all disciplines who are interested in international relations are welcome to enroll. No prerequisites or previous knowledge of international relations is required, but it would be an advantage.	At the end of this course, students should be able to: ・ Describe the historical development of the international system from the end of the Cold War to the present ・ Demonstrate a foundational understanding of the major IR theories and concepts and apply them to historical cases and current events ・ Analyze and consider solutions to global challenges in the contemporary world ・ Show research, communication, and writing skills useful for future career paths in the field	◎	○	◎	○
実	Global Governance	POL200AD	2～4	Global governance is the theme of this course. The students will first learn about the basic elements of global governance, including its meaning and key actors/institutions, and will then learn about issues related to global governance, including how it has evolved in this changing and globalized world.	Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance issues that have been evolving with the changing situation of the world. This includes various pieces of global governance, the main actors and their roles and interaction in global governance, and how global governance influences political, economic, social, and other affairs.	◎	○	◎	○
実	Japanese Politics	POL200AD	2～4	This course explores the nature of Japanese democracy and examines key issues in society and foreign relations in contemporary Japan. The topics to be discussed include: the evolution of a distinctly Japanese brand of democracy since WWII, the legacy of the U.S. occupation, the consolidation of the "1955 system", party politics, the political role of women, the political and economic upheavals during the "lost decade" of the 1990s, as well as major issues in Japan's defense policy and foreign relations in East Asia. Particular attention will also be given to the current government's policies and ongoing political developments.	The goal of this course is to equip students with a basic knowledge of the core features of the Japanese political system, as well as to enable them to understand the nature of current news and events in Japan's politics and international relations. This course also aims to help students build their analytic and critical thinking skills. By the end of the semester, students are expected to improve their understanding of a variety of political challenges facing Japanese society today.	◎	○	◎	○
実	Essay Writing	POL200AD	2～4	The course will develop the participants' English essay writing, listening, vocabulary and discussion skills through consideration of various issues related to current affairs.	This course will focus on the essay writing process from the initial stages of gathering information and planning, to the organisation of an essay, and the final stage of proofreading for content and accuracy. The course will give students practice in these skills, and will require the students to apply the skills in order to produce a problem-solution paragraph and multi-paragraph discussion essay.	◎	○	◎	○
実	Debate	POL200AD	2～4	This is an undergraduate debate course.	This course aims to help students practice fluency, exchange opinions and enhance critical thinking skills through the medium of debate. The focus will be on building, presenting and evaluating arguments.	◎	○	◎	○
実	海外メディア分析実習	POL200AD	2～4	This course is designed to help students to become informed users and analysts of contemporary communication media. The course uses approaches from the interdisciplinary methods within Global Studies. Students will learn to identify, analyze, interpret and evaluate media content in the global context. Students are expected to reflect on the content, and respond critically via discussions, presentations and writing assignments. Student tasks will include answering comprehension questions, writing essays and giving presentations in groups or individually.	The course will focus on analyzing global media, and creating critical responses. Students are expected to gain awareness of the major themes, issues and techniques in the media as well as trends of coverage of the main world events by different media channels. The overarching goal of this course is to develop the key skills of critical thinking and communication through global media analysis.	◎	○	◎	○
実	プレゼンテーション	POL200AD	2～4	この授業は「プレゼンテーションを知る事」そして「効果的なプレゼンテーションを行う方法を知り実習すること」を行います。プレゼンテーションに必要な要素を、わかりやすく初歩の部分から行っていきます。授業の流れは「座学」と「実習」を繰り返していきます。 自身の伝えたいことをわかりやすく効果的に伝える構成法、発声及び身体の使い方を学び、聞き手の感情を動かせるプレゼンテーションの習得を目指します。	1. プレゼンテーションの苦手意識克服 2. ポイントを理解し、意識的に効果的なプレゼンテーションを行う努力ができる 3. 聞き手の心を動かし、行動に結びつけるプレゼンテーションができるようになる 知らない道を地図もなく進んだら誰でも不安になるものです。同じように具体的な方法を知らないプレゼンでは、地図を持たずに知らない道を歩くようなもの。つまり苦手な当たり前のものです。何をすればいいか、どうすればいいかを学ぶことで「苦手意識を克服できる」さらに技術を知り「効果的なプレゼンテーションができる」効果的なプレゼンテーションのやり方を磨き「心を動かし行動に結びつけるプレゼンテーションができるようになる」授業ではこの3つを目指します。	◎	○	◎	○

分類※	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
実	Negotiation and Mediation Communication Sk	POL200AD	2～4	The course will develop the participants' English negotiation and mediation skills through consideration and practice of key principles of successful negotiation.	Students will learn about different approaches to negotiation in various contexts, both personal and professional. They will consider the negotiation process and learn and practice useful vocabulary and functional language for negotiation. Students will apply the knowledge and skills in three different scenarios in the latter half of the course. It is hoped that the skills acquired during the course will be useful and relevant to students' future personal and professional lives.	◎	○	◎	○
実	Global Internship	POL200AD	2～4	学期中の授業時間に行われる座学と、海外での研修やインターンを組み合わせた授業です。海外での研修やインターン体験によって、グローバルな見方やコミュニケーション能力を体得することがこの授業の目的です。受講生は、海外で一定期間、研修を受けたり、インターンとして活動することが求められます。座学では、海外での研修やインターン期間を有意義かつ安全に過ごすために必要なスキルの習得と、研修・インターン先の選定、海外での活動期間中の計画作成を行うとともに、活動終了後は、その経験から学んだことについてのプレゼンテーションや報告書の執筆を行っていただきます。	海外でのインターンシップや就業に必要な知識や能力を身につけ、インターンシップを通じて日本語以外の言語で業務を行い、海外でも的確な状況判断ができ、問題解決能力を発揮できるようになることを目標とします。 日本語以外の言語で業務報告書を作成したり、インターン先の団体が置かれている状況や直面している課題を的確に判断する能力と、インターン先の団体やその周囲の人たちと十分な意思の疎通ができる異文化コミュニケーション能力を習得することを目標とします。	◎	◎	◎	○
実	Global Internship I	POL200AD	2～4	この科目は、将来的に海外でインターンシップや就業することを想定して、アジアの特定の国でのスタディーツアーを行う。今年度は「日台関係論（福田担当）」の授業を以て、事前研修を兼ねることとする。本授業では、選航手続きに関するオリエンテーションの後、現地でのスタディーツアーを経て、経験したことをレポートやプレゼンテーションにまとめる。この科目の履修には、アジアの国際関係についての基礎知識が必要なので、履修者は福田の「演習」クラスを履修中、または8単位履修済みであることを前提とする。個別に海外でインターンシップを行う学生は、浅見靖仁先生が開講する「Global Internship」を履修すること。	海外でのスタディーツアーを通じて、日本語以外の言語で活動し、海外でも的確な状況判断ができ、様々な問題を解決できる能力を付けることを目標とする。 訪問先やそこで出会う人々と十分な意思の疎通ができる異文化コミュニケーション能力を習得し、帰国後にその経験を他者と共有できるようにすることも目標とする。				
実	Global Internship II	POL200AD	2～4	2027年度掲載予定	2027年度掲載予定				
実	文章の書き方セミナー	POL200AD	2～3	現代はネットを通じて毎日膨大な文字量のやり取りをしています。その玉石混交の情報の中から、「自分の頭」で考え、調べて、取材し、問題の所在を明らかにし、それを文章として表現する能力を養います。多様な手段で集めた情報をよく吟味、比較、文章化することによって「自分の信じたいことを信じる」のではなく、多面的により正しく、より真実に近い知識と教養を身につけることを目指します。また生成AIの登場でどのような文章でも「それらしい」ものが作れるようになりました。適正な使い方をすれば有用ですが、本講座では「AIには書けない文章」を書くことを目標としています。	エントリーシート、人物インタビュー、裁判傍聴、映画批評、メディア業界人による特別セミナーなどを通じて、資料収集、人の話を聞く技術、文章作成の基本を身につける。問題点を把握し、わかりやすく、読みやすい文章をまとめることができるように、文章を添削してから、再度書き直す過程を組み込んでいます。裁判傍聴は法学部生の実地学習の機会でもあります。これらによって、学生が平均より上位レベルの文章作成技術を習得し、マスコ志望者のみならず、通常の論文執筆や、就職試験の文章作成にも生かせる能力を養います。	◎	○	◎	○
実	グローバル政治経済特別セミナー	POL600A4	2～4	本特別セミナーは、「国際・国家防災管理：主にフィリピン・ASEAN・国連機関からの考察」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通じて、標記のテーマに関して、関連の知識を得るとともに、国際とフィリピンの防災管理等の考察を通して国際・国家公共政策の事例などを考察・分析する能力を涵養していくことも目的とする。	This seminar aims students to deepen understanding about the theme of this seminar, to conduct in-class feedback and contribution, and to summarize understanding and consideration in final reflection report.	◎	◎	◎	○
総	外交総合講座	POL200AD	1～4	この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発と貧困といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本の政府のみならず、企業や市民社会もどのように他国の多様なアクターと取り組んでいるのかについて理解を深めることにある。各回の授業に、国際機構や地域機構で活躍する実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業やNGOからの有識者に講義していただき、質疑応答も活発に行うことによって、政府間関係からだけでは知れない広義の「外交」への理解を深める。	・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に付ける。 ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の行為主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。 ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。	◎	◎	○	◎
総	国際協力講座	POL200AD	1～4	本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をおとして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。	・国際協力分野に携わる様々なアクターによる政策や活動について、また、アクター間の連携について知識を深める。 ・国際協力分野の実態と課題について知る。 ・国際協力分野における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。	◎	◎	○	◎
A	アジア国際政治概論	POL300AD	1～4	ウクライナ戦争の長期化や米中「新冷戦」の拡大で、覇権国・米国の地位が揺らいでいます。台湾海峡や朝鮮半島、南シナ海の緊張は高まり、民主化の挫折や平和構築の失敗も続いています。欧米の自信喪失とグローバルサウスの台頭で、「戦後秩序」が揺らいでいるのです。冷戦後の「平和の配当」を一番享受してきたアジア諸国は、どう対応するのか。どうしたら戦争を予防できるのか。領土問題や歴史認識などお互いの立場の違いを理解しつつ「共存」できる視点を探ります。	①アジアの熱戦と冷戦の経験を欧州と比較しつつ、国際政治の基礎を把握する ②軍事、経済、ソフトパワーなど国際社会を動かすパワーの視点から日米中のトライアングル関係を理解する ③中国と台湾、朝鮮半島、ベトナムという「分断国家」を比較してアジア特有のナショナリズムを理解する ④グローバルサウスを代表するASEAN諸国の視点や、APEC, TPPなど経済統合の意味を理解する ⑤以上を通じて、日本とアジアの将来について自分の言葉で語るようになる。	○	◎	○	○
A	朝鮮半島の政治と社会 I	POL300AD	1～4	本講義は主に1945年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。	朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。	○	◎	○	○
A	朝鮮半島の政治と社会 II	POL300AD	1～4	本講義は主に1945年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。	南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。	○	◎	○	○
A	台湾の政治と社会 I	POL300AD	1～4	1945年から現在に至るまで台湾は「中華民国政府」の実効支配下にある。1950年代から80年代に至るまでその統治は「権威主義体制」（リンズ）であった。この台湾における権威主義体制の在り方を解き明かすことを目指す。	台湾という政治社会の在り方を、「権威主義体制」という角度から明らかにする。同時に世界各地に存在した、また存在する「権威主義体制」を理解していく足掛かりを見出す。 The goal of this course is to reflect the transition process: Taiwan has changed from "Authoritarian Regime" to democracy.	○	◎	○	○
A	台湾の政治と社会 II	POL300AD	1～4	台湾における「権威主義体制」が1980年代から90年代にかけて「民主化」していく過程を明らかにする。そして、「ポリアーキー」としての民主主義が定着していく過程も射程にのぼる。	台湾における民主化過程を明らかにするとともに、世界各地における民主化とその定着の過程を明らかにする足掛かりとする。 The goal of this course is to reflect the transition process: Taiwan has changed from "Authoritarian Regime" to democracy.	○	◎	○	○

分類※	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
A	中国の政治と社会 I	POL300AD	1～4	この授業では、中国政治の基礎について学ぶ。本学は、党、国家、解放軍、法治、中央・地方関係に焦点をあてる。授業を通じて、中国政治についての基礎的な理解を養うことを目的とする。	この授業を通じて、中国政治についての基礎的な理解を養い、今後中国に関するニュースに接した時に自己の見解を持てるようにすること、また将来中国への赴任など中国と関わる機会を想定し、現代中国政治の概要を説明できるようにすることを目標とする。	○	◎	○	○
A	中国の政治と社会 II	POL300AD	1～4	今や中国を語らずして世界を語ることはできない。本授業は、「世界の工場」から「世界の市場」と称されるまでにその国際的プレゼンスを高めた中国に関し、そのガバナンス構造の特性を政治的側面のみならず、社会経済的側面にも広げ、多様な検討を行うことで国際政治学の基礎知識の習得を目指す。受講者が現代中国に関する専門的理解を得て、中国を含む国際政治の動向への自らの判断を形成、提示できるように現実とのダイアログを重視する。	本授業では、中国政治の現状および将来像に関し、受講者自身が何らかの展望をイメージし得ることを到達目標とする。	○	◎	○	○
A	東南アジアの政治と社会 I	POL300AD	1～4	東南アジアの国々のうち、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシアの4か国を取り上げ、これらの国々の政治経済状況について解説します。受講者が、これらの国々の政治経済状況についての基本的な知識を身につけるとともに、それらの知識に基づいて、東南アジアの国々と日本との関係や東南アジアの今後のあり方について自分なりの考えをもてるようになることを目的とします。	東南アジアは日本と非常に関係の深い地域であり、数多くの日本人が企業の駐在員として滞在しているほか、毎年数百万人の日本人観光客が訪問しています。この授業では、受講者が、東南アジア諸国のうち、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシアの4か国について、その政治経済状況について体系的に理解することを目標とします。これら4か国の政治経済状況の相違点や共通点について基本的な知識を習得し、さらにはそうした特徴をこれらの国々が有するようになった理由や今後これらの国々がどのように変化していくかについて自分なりの考えを受講者が持つことができるようになることを目指します。	○	◎	○	○
A	東南アジアの政治と社会 II	POL300AD	1～4	東南アジアの国々のうち、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの3か国を取り上げ、これらの国々の政治経済状況について解説します。受講者が、これらの国々の政治経済状況についての基本的な知識を身につけるとともに、東南アジアの国々と日本との関係や東南アジアの今後のあり方について自分なりの考えをもてるようになることを目的とします。	受講者が、東南アジア諸国のうち、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの3か国について、その政治経済状況について体系的に理解することを目標とします。これら3か国の政治経済状況の相違点や共通点について基本的な知識を習得し、さらにはそうした特徴をこれらの国々が有するようになった理由や今後これらの国々がどのように変化していくかについて自分なりの考えを受講者が持つことができるようになることを目指します。	○	◎	○	○
A	オセアニアの政治と社会 I	POL300AD	1～4	2024年はオセアニアの島々と日本の歴史的な関係において節目となる年である。ひとつは、日本が南洋群島統治を始めるきっかけとなった第一次世界大戦時の南洋群島占領から110周年、いまひとつは、旧南洋群島のひとつマーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカが水爆実験を行った70周年である。本授業では、オセアニアの島嶼の現状やこれら島々と日本の関わりにおいて、さらに現代世界の諸問題を考えるうえで、この二つの出来事（詳細に取り上げるのは「オセアニアの政治と社会 II」）を重視し、その理解に必要な内容を取り上げる。 オセアニアは、オーストラリア、ニュージーランド、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの存在から説明されるが、こうした区分や命名は外来者によって行われた。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験をもち、植民地下で生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の「遺産」は、島々の自立に影を落としている。また現在は、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくが、島の人びとの心身を傷つけ、離散をもたらした。社会・文化の消滅の可能性すら現実的なものとしていえる。 しかし、こうした状況にあるからこそ、オセアニアの島嶼国・地域はゆるやかな協同を通じて、大国中心の国際関係や平和の問い直しを促し、国際社会に提言してきた。また、植民地化の過程で外来のものの受け入れを強いられ、それと格闘しながら、祖先から引き継いだ知恵をいかし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちとつながりつつ、課題に取り組んできた。 本授業では、上記のようなオセアニアの「島」の現状や取り組みを紹介しながら、その背景となるオセアニアへの人類の到達から第一次世界大戦までの歴史を中心に学ぶ。「オセアニアの政治と社会 II」の前提となる授業である。	1. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する課題の固有性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に共通する課題としても理解することができる。 2. オセアニアの特に島嶼に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成する。	○	◎	○	○
A	オセアニアの政治と社会 II	POL300AD	1～4	小説家・島尾敏雄は太平洋世界のなかで日本を捉えるために、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに着目し、複数の島々からなる日本を「ヤポネシア」と表現した。これら3つの「ネシア」を含むオセアニアの「島」にくらす人びとは、太平洋に生存を委ね、海を人びとを隔てる存在ではなく、つなぐ存在として捉えてきた。果たして日本にくらす私たちに、そのような認識があるだろうか。 2024年はオセアニアの島々と日本の歴史的な関係において節目となる年である。ひとつは、日本が南洋群島統治を始めるきっかけとなった第一次世界大戦時の南洋群島占領から110周年、いまひとつは、旧南洋群島のひとつマーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカが水爆実験を行った70周年である。本授業では、この二つの出来事を柱に、Colonialismをキーワードに学ぶ。 すなわち、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアなる区分や命名は外来者によるものであり、欧米、日本の植民地や占領地、そして独立後も植民地下で生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の「遺産」が、島々の自立に影を落としていることに注目する。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、オセアニアの人びとの心身を傷つけ、離散をもたらした。社会・文化の消滅の可能性すら生んでいる。こうした事実を知ると同時に、オセアニアの人びとが、植民地化のなかで外来のものの受け入れを強いられ、それと格闘しながら、祖先から引き継いだ知恵をいかし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちとつながりつつ、課題に取り組んできたことを理解する。 以上のことを、ミクロネシア（旧南洋群島）の日本との関わり合いの歴史を中心に学ぶ。	1. ミクロネシア（旧南洋群島）と日本との関係史や現状について、研究や情報を適切に選び、批判的に考察するための視点や方法を身に付ける。 2. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する課題の固有性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に共通する課題としても理解することができる。 3. ミクロネシア（旧南洋群島）に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成する。	○	◎	○	○
A	北アメリカの政治と社会 I	POL300AD	1～4	映画鑑賞を通して、アメリカ社会の特質を考察します。 具体的にどの映画を観るのは、受講生の関心・理解度を踏まえながら決めます。	アメリカ合衆国についての理解を深めるための視点の構築をめざします。 The goal of this course is to enhance your understanding of the social and political life of the U.S.A.	○	◎	○	○
A	北アメリカの政治と社会 II	POL300AD	1～4	映画鑑賞を通して、アメリカ人の目に映る日本人・日本社会について考察をめぐらします。	多民族社会アメリカ合衆国についての理解を深めるための視点の構築をめざします。 The goal of this course is to enhance your understanding of the social and political life of the U.S.A.	○	◎	○	○
A	日本の政治と社会 I	POL300AD	1～4	本授業では、1940年代から1960年代までの日本の政治と社会を多角的に考察する。とりわけ、敗戦から復興、政党政治の始動、55年体制の成立、天皇制と日本社会、大衆運動の高揚、高度経済成長と日本社会の変容、アメリカ統治下の沖縄社会などを詳しく検討し、戦後システムの形成を考察する。	1940年代から1960年代までの日本の政治と社会の大きな流れとその特質を説明できる。	○	◎	○	○
A	日本の政治と社会 II	POL300AD	1～4	本授業では、1970年代から現在に至るまでの日本の政治と社会を多角的に考察する。とりわけ、55年体制の崩壊と日本政治の流動化、低成長時代の政治と社会、日本政治の保守化、自民党政権の持続と変容、3・11と日本社会、人口減少と日本社会、沖縄と本土の溝などを詳しく検討し、戦後システムのゆらぎを考察する。	1970年代から現代までの政治と社会の大きな流れとその特質を説明できる。	○	◎	○	○

分類※	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
A	アメリカ外交史 I	POL300AD	2～4	アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。	次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。	○	◎	○	○
A	アメリカ外交史 II	POL300AD	2～4	第二次世界大戦以降のアメリカの対外関与に関する専門的な知識を身につけるとともに、対外政策過程をめぐる政治力学の機軸についての理解を深め、意思の決定や実行に関する実践的な知識も習得する。	・第二次世界大戦以降のアメリカの対外政策の歴史を踏まえて、現在のアメリカ外交を理解できるようになる。 ・アメリカの対外政策の立案・決定・実行をめぐる政治力学の複雑さに関する理解を深め、米国内の多面的なアクターによる駆け引きと、諸外国との相互作用の接点として対外政策を理解できるようになる。	○	◎	○	○
A	中国の政治と外交 I	POL300AD	1～4	本授業では、近現代中国の政治外交史についての基礎知識を付けた上で、現在の中国政治外交における種々の論点についての理解を深めることを目指す。国際社会において存在感を増す中国の外交について理解することで、アジアの国際関係やグローバルガバナンスについての専門知識がより深まることも期待される。	近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国政治外交における個別の論点について議論できるようになる。	○	◎	○	○
A	中国の政治と外交 II	POL300AD	1～4	本授業では、近現代中国の政治外交史についての基礎知識を付けた上で、現在の中国政治外交における種々の論点についての理解を深め、議論することを目指す。国際社会においても存在感を増す中国の外交について理解することで、アジアの国際関係やグローバルガバナンスについての専門知識がより深まることも期待される。	近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国外交における個別の論点について議論できるようになることを目標とする。	○	◎	○	○
A	ロシアの政治と外交 I	POL300AD	1～4	本講義では、20世紀以降のソ連・ロシア外交の展開を概観し、ソ連・ロシアが国際社会にどのような影響を及ぼしてきたかを検討します。前期の授業では、ロシア帝国末期からソ連崩壊に至るまでの時期を扱います。 この講義を通じて、受講者は、ソ連とロシアの外交政策がどのような変遷を辿ってきたかを理解するだけでなく、(超)大国であるソ連・ロシアの外交が国際社会にどのような影響を与えたのかを理解することを目指します。	1. ソ連がどのような国際環境を持ち、その中でどのような外交政策を行ってきたか、20世紀を通じたソ連・ロシア外交の変遷を説明できる。 2. ソ連・ロシア外交の変遷が、国際社会のあり方に対しどのような影響を及ぼしてきたかを理解し、国際社会の中でのソ連・ロシアの立場の変遷を説明できる。	○	◎	○	○
A	ロシアの政治と外交 II	POL300AD	1～4	本講義では、20世紀以降のソ連・ロシア外交の展開を概観し、ソ連・ロシアが国際社会にどのような影響を及ぼしてきたかを検討します。後期の授業では、ソ連崩壊後のロシア外交がどのように展開してきたかを考えます。また、後半は、ロシアとウクライナの関係に焦点をあて、ロシア・ウクライナ戦争がなぜ生じたかを国際的文脈から考えます。 この講義を通じて、受講者は、ソ連崩壊後に国力が低下した時期を経て、ロシアが再び国際社会でいかに存在感を強めていったのか、そして現在ロシアは国際社会においてどのような立場にあるかを学びます。	1. 冷戦後の新たな国際環境の中で、ロシア外交がどのように変化してきたかを説明できる。 2. ウクライナ危機およびロシア・ウクライナ戦争はなぜ起きたのかを国際的文脈から説明できる。	○	◎	○	○
A	ヨーロッパ国際関係史 I	POL300AD	1～4	本講義では、ウィーン体制に至るまでの近代ヨーロッパの国際政治史について学ぶ。 現代世界に根付いている「主権国家」、「外交」などの概念はヨーロッパにその誕生の起源がある。つまり、ヨーロッパについて学ぶということは、ヨーロッパのみならず、日本を含む世界各地の国際政治史の一端を学ぶことにもつながるのだ。この点に本講義の意義がある。 国際政治史の主役は国家であるが、その国家は人間によって構成されている。そうした人間のなかでも、主に政治と外交の分野で政策を立案し、決定を下す政治エリートに焦点をあてて講義を実施する。	到達目標は「勢力均衡」や「ヨーロッパ協調」という政治学の概念を理解したうえで、該当する時代の歴史に関する知見を深めることである。	○	◎	○	○
A	ヨーロッパ国際関係史 II	POL300AD	1～4	本講義では、ウィーン体制下の国際秩序とその動揺を皮切りに、現代に至るまでのヨーロッパ国際政治史について学ぶ。 ヨーロッパの大国が域外に勢力を拡張することで、そのヨーロッパの様々な制度や慣習がアメリカ、アジア、あるいはアフリカに普及した時代を扱う。それは各地に新たな大国が出現したことで、圧倒的なパワーを誇ってきたヨーロッパ列強の相対的な地位が低下した時代でもあった。革命、総力戦、冷戦、あるいは地域統合を経たヨーロッパの変遷を追っていくことで、各時代の状況を把握することを目指す。	本講義の到達目標は、ヨーロッパの歴史を鳥瞰し、国際秩序の構築と崩壊が繰り返された経緯に関する知見を深めることである。	○	◎	○	○
A	日本外交史 I	POL300AD	1～4	本講義は、敗戦から1970年代前半までの日本外交史を国際情勢と内政という「外」と「内」との連関という視点から学び、その現代的な意味を考える。 具体的には、①占領・講和期の外交・安全保障、②日米安保体制の確立、③戦後処理外交、④高度成長と経済外交の4つをサブ・テーマとして設定し、各々における主要なイシューがいかに展開していったのかを国際関係と国内政治の影響に注目しながら概説する。	敗戦から1970年代前半までの日本外交の歴史的展開を理解し、現代の日本外交の課題を歴史的な文脈に位置付けて考察できる知識を身につける。	○	◎	○	○
A	日本外交史 II	POL300AD	1～4	本講義では、1970年代から2010年代までの日本外交史の展開を国際情勢と内政という「外」と「内」との連関という視点から学び、その現代的な意味を考える。 具体的には、①「日米同盟」の深化、②「経済大国」の経済外交、③残された戦後処理問題の3つをサブ・テーマとして設定し、各々における主要なイシューがいかに展開していったのかを国際関係と国内政治の影響に注目しながら概説する。	1970年代以降の日本外交の歴史的展開を理解し、現代の日本外交の課題を歴史的な文脈に位置付けて考察できる知識を身につける。	○	◎	○	○
A	アジア比較政治論 I	POL300AD	1～4	「グローバルサウス」という言葉を近ごろよく目にしませんか？新興国・途上国の総称で、人口パワーや高い経済成長を背景に、国際社会で発言力を強めています。とりわけ東南アジアや南アジアは、激化する米中対立の最前線ともなっています。日本にとってアジアとの関係はいつそう重要になり、皆さんも将来、好むと好まざるとにかかわらず、必ず接点を持つはずです。「アジアの中の日本」の行く末を考えるには、何よりも隣人たちとの相互理解が不可欠です。本講座では最新のアジア情勢を紹介しつつ、歴史の「縦軸」と国際関係の「横軸」に視野を広げながら、アジア地政学の理解に努めます。	・アジアの基本知識が身につく、国際ニュースの背景がわかるようになります。 ・アジア情勢を題材に、これまでの経緯や他国との関係を踏まえながら、物事を多面的に分析・理解する力を身につけます。	○	◎	○	○
A	アジア比較政治論 II	POL300AD	1～4	「グローバルサウス」と総称される新興国・途上国の中で、とりわけアジア経済は力強い成長を続け、世界経済のけん引役となっています。この地域はまた国境をまたいだ工程間の水平分業や、その原動力となる自由貿易協定（FTA）網でも世界の先頭を走り、日本にとって最重要地域となっています。激化する米中対立は、その入り組んだサプライチェーン（供給網）の再編を迫り、我々にも大きな課題を突きつけています。現代の国際関係において、政治と経済、地政学と「地経学」は不可分です。本講座では、主にマクロ経済や産業、通商といったプリズムを通して、アジア地政学の理解に努めます。	・アジア経済の基本知識が身につく、国際ニュースの背景がわかるようになります。 ・アジア経済を題材に、これまでの経緯や他国との関係を踏まえながら、物事を多面的に分析・理解する力を身につけます。	○	◎	○	○

分類※	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
A	日中関係論	POL300AD	1～4	本授業では、現代日中関係史についての基礎知識を付けた上で、現在の日中関係における諸問題の論点を整理し、議論できるようにすることを目指す。今日の国際社会において存在感を増す中国と日本の関係について理解することで、アジア国際政治学やグローバルガバナンス全体についての専門知識がより深まることも期待される。	第二次世界大戦後の日本と中国の関係について、アジア国際政治史の文脈のなかで理解する。そして、今日の日本と中国の関係が抱える諸問題について、その背景を理解し、議論できるようにする。	○	◎	○	○
A	日台関係論	POL300AD	1～4	本授業では、現代日台関係史についての基礎知識を付けた上で、現在の日台関係における諸問題の論点を整理し、議論できるようにすることを目指す。今日の国際社会においてその重要性が認識されつつある日本と台湾の関係とその特殊性について理解することで、アジア国際政治学やグローバルガバナンス全体についての専門知識がより深まることも期待される。	第二次世界大戦後の日本と台湾の関係について、アジア国際関係史の文脈のなかで理解する。そして、今日の日本と台湾の関係が抱える諸問題について、その背景を理解し、議論できるようにする。	○	◎	○	○
G	国際機構論 I	POL300AD	1～4	In this course "International Organizations I", students will learn about the definition, roles, categories, functions, and history of international organizations. They will learn about the role of the United Nations (UN) and how various UN agencies tackle key global issues, including international peace and security, economic and social development, human rights, and humanitarian assistance. UN's activities to support the achievement of the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) will be examined. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.	The students will deepen their understanding of the conditions and circumstances that led to the creation of international organizations as well as their role in the world. Their understanding will be particularly enhanced on the unique role of the UN as well as their strengths and limitations by examining the function of its principal organs and various UN agencies. The students will also understand how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.	○	◎	○	○
G	国際機構論 II	POL300AD	1～4	In this course "International Organizations II" (which follows "International Organizations I"), students will learn about the different roles and activities of various international organizations, notably the UN system and its agencies. They will learn how different UN agencies deal with key global issues, particularly those included in the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs). The course will examine the evolving role of the UN and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.	The students will deepen their understanding of the role and activities of the various UN agencies, including their strengths and limitations as well as challenges for the future. They will also enhance their understanding on how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.	○	◎	○	○
G	平和・軍事研究 I	POL300AD	1～4	世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えなかった現象がより明確に理解できると同時に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全な軍事的な判断能力が求められる。 この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るための必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならぬ。平和を理想だけに求めず、武力方能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。	平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪論的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。	○	◎	○	○
G	平和・軍事研究 II	POL300AD	1～4	授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事重点を解説する。 これらを通して、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。	平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪論的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。	○	◎	○	○
G	国際NGO論 I	POL300AD	1～4	社会が健全に機能するためには、社会資本や公共サービスなどの「公共財」を供給する政府（行政）の役割、社会が必要とする商品やサービスを提供し経済活動を回しながら利益追求型で成長する企業の役割、そして、NGOを含めた非営利組織の役割が必要とされる。近年では、教育、環境、災害、貧困、人権、福祉、医療などでも非営利組織の顕著な活動が増えてきている。 この授業では、実際にNPOの実務に関わる講師と共に、世界のNGO・NPO、日本のNGO・NPOの発展と歴史について学ぶ。また、NGO・NPOに直接携わる外部講師を招き、質問や議論を通して現場の経験や葛藤から今後私たちが考えるべき論点を探る。これらを通して、現代社会、未来におけるNGO・NPOの可能性と課題を学ぶ。	1. 社会における非営利組織の存在意義/役割について理解できるようになる 2. 非営利組織の構造的・制度的な課題について理解できるようになる 3. 非営利組織の存在を身近なものとして捉え、自分の意見をもてるようになる	○	◎	○	○
G	国際NGO論 II	POL300AD	1～4	飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組むNGOの役割が重要になってきています。 NGOの支援においては、物質的な支援だけではなく、人々の潜在的な能力を高め、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このようなNGOの活動理念やアプローチを実例から学び、NGOが社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何が出来るかを考えることを目的とします。	(1) 地球規模課題に取り組むNGOの特徴と課題を理解する。 (2) 一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることが出来るか、糸口を見つける。	○	◎	○	○
G	国際文化交流 I	POL300AD	1～4	授業概要：国際関係論の中で扱われる文化の問題について基本的な理解をたううえで、歴史的な経緯を追いながら、今日の国際文化交流の基盤となっている、国民国家と文化の関係、帝国主義時代の宗主国と植民地の文化関係、脱植民地化の過程で問われてきた文化的依存関係等について、何が公正であるのか、何が問題であるのかを考える。 授業の目的・意義：国際政治の本質を理解するために、文化という国家のもっとも基礎的な部分を理解し、国際政治・国際関係の動因の重要な要素としての文化が分かるようになる、ことを目的とする。	国際関係論で取り上げられる文化は他の学問領域における文化とは異なり、国際政治に影響を与えるものとしての文化である。その点をまず理解することが必要である。その上で、普遍に捉えられる国際関係に、文化の違いがどのように影響するのかを理解すること。今日の国家間関係の中で文化の問題とされる諸課題の歴史的経緯を理解すること。そこで、何が公正なのかを理解すること。さらに、国家がどのように文化を国家アイデンティティの表象として用いるのかを理解すること。	○	◎	○	○
G	国際文化交流 II	POL300AD	1～4	授業概要：国際移民の問題を多文化共生の観点から理解する。日本の多文化状況について理解を深めると同時に、他の先進国における移民政策や移民の人権擁護について理解する。 授業の目的・意義：国際移民を国際関係における一つの避けがたい現象であることをまず理解し、客観的な観点、また国際人権の観点から考える姿勢を身につけることを目的とする。その前提の上で、政府がとりうる政策について、最終的には日本の政策の可能性について、自ら考えるための基礎的な知識を身につける。	日本を含む先進国の多文化状況の現状、原因、課題について理解する。移民問題の一つの対処方法である多文化主義の理念と現実について、海外の事例を含めて理解する。日本における多文化共生の理念と現実について理解する。日本の移民に対する政府、自治体、市民社会の政策や活動について、内容と課題を理解する。	○	◎	○	○
G	地球環境論 I	POL300AD	2～4	自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論 I（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論 II（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。	以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身につけます。 ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際 ②諸外国における取組みの事例とその仕組み ③国際条約など国際的な枠組みによる保全	○	◎	○	○
G	地球環境論 II	POL300AD	2～4	環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何かおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学的基礎を習得することを目指します。I、II、IIIのいずれかだけを履修してもかまいません。	以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目指します。 ・人口増加のパターンと要因 ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策 ・気候変動をめぐる社会 ・越境大気汚染の原因と対策 ・プラスチックごみ対策 ・環境国際協力	○	◎	○	○
G	国際経済論 I	POL300AD	1～4	国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、FTAやEPAなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。	②諸外国における取組みの事例とその仕組み	○	◎	○	○
G	国際経済論 II	POL300AD	1～4	国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。	③国際条約など国際的な枠組みによる保全	○	◎	○	○
G	グローバル・ビジネス論 I	POL300AD	1～4	それぞれの地域や社会は独自の歴史的な発展を遂げているが、産業革命以降は生産のみならず人々の暮らし方や考え方も多方面に激しい変化をもたらしている。そうした変化はグローバルに影響を与えながらスピードアップをあげている。一例はスマート・フォンの登場から10年間でグローバルな変化であろう。産業社会の変化を多角的に捉えてグローバルな思考を養う	グローバル化は歴史的な産物であり、同時に多様な社会科学を生み出したともいえる。 欧米やアジアにおいて社会が大きく転換し、利害の対立や衝突を回避しつつ相互理解や相互依存が広がっていくことが望ましいが他方で簡単には達成できない困難な現実がある。社会科学の基礎的な視点を整理し、グローバルな変化を再確認しつつスキルアップへのベース作りとすることを到達目標としている	○	◎	○	○
G	グローバル・ビジネス論 II	POL300AD	1～4	産業革命以降の多方面での変化は20世紀に入り変化のスピードを高めているといえる。 東西冷戦終結の終焉に伴い、地政学から地経学が注目され、中進国から先進国においては知識型経済社会や社会のサービス化の現象が広がっている。こうした変化をとらえつつ政治経済を含む広義のビジネスにおけるグローバルなインパクトを多角的に考察する	社会科学の進歩や発展は社会の発展形態と相関関係があるといえるかもしれない。他方で産業社会の変化は個人のスキルアップを後押しし、変化に対応することを求めているともいえる。グローバルな変化の構造を理解しながら社会科学の基礎的な視点を整理し、グローバルな変化を再確認しつつグローバルな志向性を高めてスキルアップのベース作りとすることを到達目標としている	○	◎	○	○
G	国際環境法 I	POL300AD	2～4	国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。	国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。	○	◎	○	○

分類※	科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
G	国際政治経済学 I	POL300AD	1～4	今日の国際社会は、経済格差、金融危機、ネット犯罪、環境問題など、ひとつの国家では解決できない「グローバル・イシュー」に直面している。これらの政治、経済、技術など多領域にわたる国際問題を理解するために、国際政治経済学（IPE: International Political Economy）」の視点は有効である。この授業では、政治と経済の相互作用に着目して、IPEの視点が必要になってきた国際秩序の変容について歴史的に整理した後、国際社会が直面する諸問題についてIPEの視点から考察する。そして、現在の国際秩序をグローバル、リージョナル、ナショナルの3つの次元から観察することによって、今後の国際秩序を展望する。	(1) 「政治と経済の相互作用」に着目して、国際政治経済学（IPE）の視点から国際社会を観察する眼を養う。 (2) 国際社会が直面するさまざまな問題について「政治と経済の緊張関係」に注目して考える。	○	◎	○	○
G	国際政治経済学 II	POL300AD	1～4	この講義では、国際政治経済学（IPE: International Political Economy）の視点から、現在の国際社会の争点について検討する。春学期開講の「国際政治経済学I」ではIPEの理論と発展を中心に講義するが、本講義では、国際社会の争点、例えば、安全保障に関する問題、移民問題、経済発展と人権・民主化とのかかわり、地球環境問題などの事象をIPEの視点から分析する。扱うテーマはどれも、グローバル化の中で起きている「政治と経済の緊張関係」を孕む今日的かつ論争的なものばかりである。受講希望者は、IPEの基本的な考え方や視点を正しく理解しておくために、「国際政治経済学I」を必ず受講しておくこと。	・「政治と経済の相互作用」に着目して、国際政治経済学（IPE）の視点から国際社会を見る眼を養うことができる。 ・「政治と経済の緊張関係」に注目して、現代のIPEで争点となっている事例を検討することによって、自ら関心をもつイシューを見つけることができる。 ・自らの関心事について調べ、アカデミック・レポートを作成できるようになる。	○	◎	○	○
G	経済外交論 I	POL300AD	1～4	国際関係において政治・外交と経済とは不可分の関係にある。本講義は、第一次世界大戦以降の国際関係において経済要因が強く影響した事例を取り上げ、国際政治経済学的視点から20世紀史を展望する。具体的には、①第二次大戦勃発における経済要因（第一次世界大戦後の賠償問題、世界恐慌等）、②冷戦における経済要因（ブレトンウッズ体制の成立、米ソの体制間競争、ベトナム戦争、レーガノミクス等）、③グローバル化の進展の諸側面（脱植民地化と南北問題、資源ナショナリズム等）といったテーマを素材として議論する。	第一次世界大戦以降の外交課題における「政治」と「経済」との重層性・連関性を理解し、現代の国際関係を複眼的視点から理解する能力を身につける。	○	◎	○	○
G	経済外交論 II	POL300AD	1～4	国際関係において政治・外交と経済とは不可分の関係にある。本講義は、1970年代前半から現代までの国際関係において経済要因が強く影響した事例を取り上げ、国際政治経済学的視点から現代史を展望する。具体的には、①1970年代以降のアジア冷戦における経済要因（アジア開発主義と冷戦、中ソ対立、日本の経済外交とアジア、中東戦争と石油危機）、②冷戦終結における経済要因（レーガノミクスと米ソ核交渉、プラザ合意）、③ポスト冷戦期の経済と外交（湾岸戦争、「東アジアの奇跡」とアジア通貨危機、9・11同時多発テロ、リーマンショック、アジア地域主義の展開）といったテーマを素材として議論する。	1970年代から現代までの外交課題における「政治」と「経済」との重層性・連関性を理解し、現代の国際関係を複眼的視点から理解する能力を身につける。	○	◎	○	○
G	現代イスラム世界論	POL300AD	1～4	現代のイスラム世界（中東・アフリカ・アジアなど）で起きている重要な出来事や事象について、原因、背景、影響などを理解し、自ら考える習慣を身につけることを目標とする。たとえば、イスラエルとイスラム組織ハマスとの対立がなぜ発生し、世界にどんな影響を与えているか、イランが核開発を進める理由、及び、世界や日本にどんな問題が起きうるか。こうした具体的な問題の原因や背景を学び、解決への道筋を考えることで、激動する現代の国際社会で生きていくための基礎知識と思考力を身につける。	①イスラエルとイスラム組織ハマスの対立が起きた原因と背景、世界に与える影響。②イスラム革命後のイランとアメリカ・イスラエルの激しく対立している理由。イランが核開発を進めることで、世界と日本にどんな問題が起きうるか。③同じイスラムの国でも、サウジアラビアとイランが激しく対立してきた理由。④イスラム過激派組織が生まれ、テロを行うのはなぜか。⑤アフガニスタンでイスラム主義勢力タリバンの支配が復活したのはなぜか。⑥イスラム世界で民主主義は定着するのか。⑦イスラム世界でも、国や地域によってイスラム教の戒律（たとえば飲酒、女性の服装）の規定や習慣が異なるのはなぜか。⑧日本とイスラム世界の関係はどう変化してきたか。こうした具体的な問題の背景や原因を学び、考えることで、激動する国際社会への理解を深め、異文化の人々との相互理解の態度を身につける。	○	◎	○	○
G	グローバル課題とNGO I	POL300AD	1～4	本講義は、貧困、格差、紛争、飢餓など、現代世界が直面する多様なグローバル課題について、現状とそれらが生み出されてきた構造的背景について理解することを目的とする。また、グローバル課題の解決において、非政府・非営利組織（NGO）が果たしてきた役割とその意義、成果と限界を学ぶ。講義では、紛争や難民支援などの具体的事例や映像資料を用い、現場に近い視点から考察する。実践と理論を行き来しながら、国際協力に係るアクターの関係性を理解し、社会課題に対する主体的かつ批判的思考力を養う。	1. 開発途上国を取り巻くグローバル課題の現状とその構造的背景について基礎的な知識を得る。 2. グローバル課題の解決における非政府・非営利組織NGOの役割、取組み、成果と限界/課題を理解する。 3. 開発の理論と国際協力の実践を行き来することで、グローバル課題の解決にはどのような組織や人材、体制が求められるのか、主体的かつ批判的思考力を養う。				
G	グローバル課題とNGO II	POL300AD	1～4	本講義は、貧困、格差、紛争、飢餓など、現代世界が直面する多様なグローバル課題について、現状とそれらが生み出されてきた構造的背景について理解することを目的とする。また、開発および国際協力の潮流を概観したうえで、非政府・非営利組織（NGO）が果たしてきた役割とその意義、成果と限界を学ぶ。講義では、紛争や難民支援、国内災害対応などの具体的事例や映像資料を用い、現場に近い視点から考察する。実践と理論を行き来しながら、国際協力に係るアクターの関係性を理解し、社会課題に対する主体的かつ批判的思考力を養う。	1. グローバル課題に取り組んできた「開発」の歴史的な潮流と転機点を整理し、国際協力に関わる多様なアクターの役割について説明できる。 2. NGOによる具体的な活動事例を通して、グローバル課題の解決に求められる組織、体制、人材とは何かを主体的かつ批判的に考える力を養う。 3. NGOの役割の変遷や成果・限界、評価の視点や出口戦略について理解し、今後の国際協力のあり方について考察する視座を身につける。				
選択 (2021年以降入学生)	演習	POL300AC	2～4	国際政治学・国際政治等の様々な専門的テーマについて、少人数の演習（ゼミ）形式で学ぶ。	各演習ごとに多岐にわたるが、おおむね、国際政治学・国際政治等の様々な専門的テーマについての理解を深め、分析する思考力を身に付け、学習成果の発表・議論ができるようになること、また、読解力・語学力や文章作成能力を伸ばすこと、更に、将来の職業生活に向けたモチベーションを養うことなどが目標となる。	◎	◎	◎	◎